

【表3】在宅ケアで使用する器材の処理方法例

※これは一例ですので、器材の取り扱い説明書を確認のうえ実施してください

分類	器材の種類	処理方法	その他
ノンクリティカル器材	聴診器	皮膚に接触するチェストピースは、患者毎にアルコール系消毒薬で清拭する ①消毒用エタノール ②70%イソプロピルアルコール ③イソプロピノール添加エタノール液	血液や体液などで汚染時は洗浄を行う
	血圧計カフ	患者毎にアルコール系消毒薬で清拭する	血液や体液などで汚染時は洗浄を行う
	体温計 (耳式, 腋窩)		
	爪切り	患者毎に洗浄、乾燥後アルコール系消毒薬で清拭する	
	経腸栄養用具	①ボトル型の投与容器は中性洗剤で洗浄後、食器乾燥機などで十分乾燥させる ②バッグ型投与容器は中性洗剤で洗浄後に0.01%次亜塩素酸ナトリウムに1時間以上浸漬消毒し、使用直前にすすぐ	経腸栄養投与セットは洗浄や乾燥が行いにくいいため、経管栄養剤と投与容器が一体化した製品を使用することが望ましい
セミクリティカル器材	口腔吸引カテーテル	①吸引後、カテーテルの外側をアルコール系消毒薬で清拭する ②水道水を吸引し、カテーテルの内腔を十分洗浄する ③カテーテルを清潔な容器に保管する	吸引時のカテーテル洗浄用の水は、吸引後に交換する
	超音波初ラザー	①薬剤カップ、蛇管、マウスピースを取り外し、洗浄する ②0.01%次亜塩素酸ナトリウムに1時間以上浸漬消毒し、すすいで乾燥させる	24時間毎に洗浄、消毒を行う
クリティカル器材	気管内吸引カテーテル	<p>&lt;乾燥させて保管する方法&gt;</p> ①吸引後、カテーテルの外側をアルコール系消毒薬で清拭する ②滅菌水を吸引し、チューブの内腔を十分洗浄する(アルコール系消毒薬を吸引しておく乾燥が早い) ③熱湯消毒した瓶や清潔な容器に保管する <p>&lt;消毒薬に浸漬保管する方法&gt;</p> ①, ②は同上 ③8%エタノール添加の0.1%塩化ベンザルコニウムを吸引して、チューブを浸漬する ④使用前に滅菌水を吸引し、消毒薬を十分にすすぐ	<ul style="list-style-type: none"> <li>吸引カテーテルは単回使用が望ましい</li> <li>消毒薬の交換は、毎日交換する</li> </ul>